

No. 17-133 第 19 回リーダーを目指す技術者倫理セミナー
—どこまで安全を求めるか：安全社会と安心社会の選択—
(技術と社会部門, イノベーションセンター 合同企画)

協賛 (予定) 日本技術士会, 可視化情報学会, 計測自動制御学会, 自動車技術会, 精密工学会, ターボ機械協会, 日本計算工学会, 日本航空宇宙学会, 日本塑性加工学会, 日本鋳造工学会, 日本マリンエンジニアリング学会, 日本ロボット学会, 溶接学会, 化学工学会, 日本建築学会, 土木学会, 電気学会, 日本化学会, 電子情報通信学会, 日本船舶海洋工学会, 日本航海学会

開催日 2017年11月11日(土) 10.00~17.00

会場 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京 5階501室

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

JR 山手線・京浜東北線 田町駅から徒歩 1分

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅から徒歩 5分

<http://www.cictokyo.jp/access.html>

今回のテーマおよび論点

「安全社会と安心社会の選択」

論語に、「子日わく、民は之に由らしむべし。之を知らしむべからず。」との記述がある。これによると、政府や自治体(為政者)の方針に国民や市民(公衆)を従わせればよく、内容は理解できないだろうから説明する必要はない、と解釈されている。しかし、現在は、情報公開の観点から、公衆に方針、施策を公開し、理解できないところは説明する、ことが必要である。

最近の例では、豊洲新市場の汚染問題がある。これは、建設に関しては、盛り土、地下空間、汚染に関してはベンゼン、ヒ素、シアン、環境基準、排水基準などの用語が使用され、専門家会議では、「完全に環境基準以下にすることは難しい。時間をかけて徐々に除去していく。」などとの説明がなされているが、公衆にどれほど理解されているか疑わしい。報告書は提出され、公開されているのだから、専門家会議は、きちんと説明していく必要がある。漏出した水から有害物質が検出されているが、市場で使用する水は水道水であるなど、安全性評価や漏洩対策などについて、わかりやすい説明がほしいところである。100%安全やゼロリスクは考えられないことなので、許容できる境界を説明すべきである。汚染の基準に関しても、地下水の基準には、排水基準と環境基準があり、環境基準は排水基準の10倍厳しいものである(排水基準の値は、環境基準の値の10倍)など、その説明も不十分と思われる。

また、都のホームページには、盛り土に関して、変更後も変更前の図が掲載されていた。行政部署間の情報伝達がうまくいっていないことも露見している。変更があった場合にも、正しい情報をすばやく公開すべきという認識が甘いようである。

他の例として、福島放射線問題、BSE問題を取り上げ、

- ・技術者は公衆に対して、技術事項をどのように説明すれば「説明責任」を果たせるか。
- ・技術者として、どこまで安全を追求すれば、社会から安心を得られるか。

の点について皆さんと考えてみたい。

参加者の経験、知識に基づいた討論課題を考えており、グループ課題については配付資料に記載する。

セミナーでは、次の手順により議論を進める。

1. 事前に配付された資料による自主学習
2. 「テーマおよび論点」説明
3. グループ意見交換において、自分の意見を明らかにする
4. 全体討論において自分の立場を明確にして議論する

事前に配付する資料を読んで頂いて、参加されることを前提とする。

プログラム

10.00～10.10／セミナーの趣旨説明，本日の進め方

横浜国立大学 大学院工学研究院 教授（主査） 高田 一

10.10～11.00／安全社会と安心社会の選択についての概要

東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科 特任教授 中村昌允

11.00～11.40／討議の趣旨，討議の進め方

オカダ・アソシエーション 技術士 岡田恵夫

11.40～14.00／グループワーク

- ・技術者は公衆に対して、技術事項をどのように説明すれば「説明責任」を果たせるか。
- ・技術者として、どこまで安全を追求すれば、社会から安心を得られるか。

14.00～17.00／技術者倫理に関する全体討論

明治大学 理工学部 准教授 村田良美
KoPEL 技術士 小西義昭
講師全員
司会 高田 一

定 員 30名，申込み先着順により定員になり次第締め切ります。

参加費（資料代含） 会員 3,000円，会員外 5,000円，参加費は当日会場にて申し受けます。10月25日までに、お申し込み下さい。事前に（11月2日ごろ）E-mailで資料を送信いたします。以降は、定員に余裕がある場合、当日受付いたします。資料配布後のキャンセルはできません。

申込方法 「No.17-133 第19回リーダーを目指す技術者倫理セミナー参加申込み」と題記し、(1)所属学協会、(2)氏名、(3)勤務先・所属、(4)E-mailアドレスを明記の上、E-mailにて下記までお申し込み下さい。

申込先・問合せ先 日本機械学会 技術と社会部門（担当職員 片岡）／E-mail：kataoka@jsme.or.jp／FAX (03) 5360-3508